

合同ゼミの感想と反省

安達宇宙・木村賢太郎・西瀧宇宙

1. 合同ゼミの準備に関する感想と反省

今回私たちは、埼玉県川口市の鋳物について調べました。まずなぜ川口市の鋳物にしたのかというと、都心からも近く川口市へヒアリングもしやすいのではないかと思い決めました。

テーマを決めたのはいいものの、3人とも鋳物というものをほぼ全く耳にしたことがなかったのも、業界がどうこうというよりもまず、鋳物というものから知っていくようにしました。調べていくにつれて鋳物は以外と知っているものに使われていたというのが分かりました。しかし、現在では鋳物に代わる鉄製品の開発がとても進んでいてこれらを踏まえどう将来性などを論じていけばいいのかが問題でした。

夏休みに1度3人で川口へ行ったのですが思うような収穫を得られずに終わってしまいました。結局川口に行ったのはその1度きりでした。自分が班のリーダーとして無理やりにも3人の日程を合わせてヒアリングに行き、現地の声というものを聞ければ良かったと思いました。

2. 当日の報告とそれに対する質疑応答の概要

私たちは、「KAWAGUCHI i-mono ~川口鋳物~」という題名で川口鋳物について調べました。鋳物最盛期から約40年たった今、鋳物産業がどのような事業をして生き残っているのか、また今後鋳物にどのような将来性があるのかを調べました。

当日の流れは以下の通りです。

1. 鋳物について

- ① 鋳物とは
- ② 川口市の鋳物産業の歴史
- ③ 川口鋳物の問題点

2. JAPAN ブランドへの参入

- ① 企画内容
- ② 国内・外市場での活動

3. 今後の将来性

4. まとめ

相手からの質問は、全国の芋の生産の中で川口市の鋳物が占める割合はどのくらいか。また、「ニューディール作戦川口」が行われてから JAPAN ブランド参入までの間はどんな政策をしていたのかなどを質問されました。

3.合同ゼミに対する感想と反省

去年 1 度経験していることもあり、レベルの高い内容が求められるのは当然なことで、その上今年も特別審査員の方々も来て頂いていたので当日は、不安なことばかりでした。

私たちのプレゼンファイルと相手チームのプレゼンファイルを比べてみると、やはりグラフが少なかったと思います。授業中、先生に「ヒアリングに行きなさい。」と言われながらもインターネットの情報ばかりに頼ってしまい、無理やり完成させたようなものでした。しっかりとヒアリングも回数を重ね、自信を持ってプレゼンできるファイルに出来ればもっとよかったと思いました。

(文責 安達宇宙)